

日本におけるデジタル化の状況

G584212025 上田 美樹

2025 年 6 月 30 日

1 ブロードバンドの整備状況

OECD によるブロードバンド回線の普及に関する調査 [1] によると、図 1 に示すように、日本における 100 人あたりのモバイルブロードバンドの加入者数は 190.5 で、第 1 位になっている。2 位はエストニアで、3 位米国と続く。

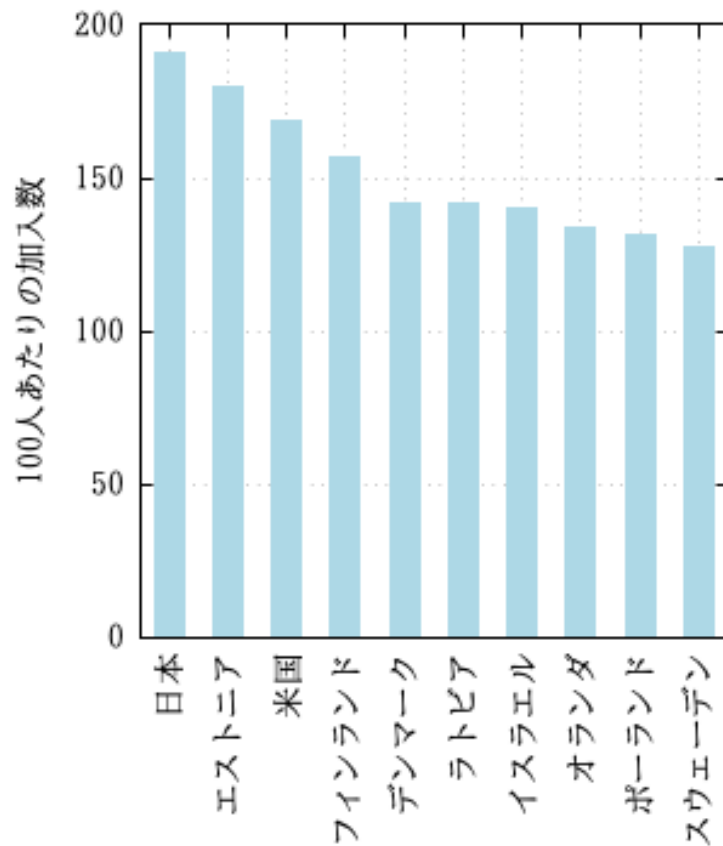


図 1: 光ファイバー回線の加入者数（100 人あたり）

2 デジタル競争力ランキング

国際経営開発研究所 (IMD) の調査 [2] によると、表 1 に示すように、日本のデジタル競争力のランキングは調査対象の 64 カ国中、総合で 28 位、知識分野で 25 位となっている。

表 1: デジタル競争力ランキング (64 カ国中)

国	総合	知識
米国	1 位	3 位
香港	2 位	5 位
スウェーデン	3 位	2 位
デンマーク	4 位	8 位
シンガポール	5 位	4 位
韓国	12 位	15 位
中国	15 位	6 位
日本	28 位	25 位

3 考察

光ファイバーとデジタル競争力の関係について結果 [2] から次のようなことがわかる。

- 光ファイバーの加入者数が多い国は、高速で安定したインターネット環境が整っていることが多く、デジタル競争力ランキングも上位に入っている傾向がある。
- デジタル競争力ランキングが高い国ほど、ネットインフラが整備されているだけでなく、IT 技術の活用やサービスの質も高い可能性がある。
- 逆に光ファイバーの加入者数が少ない国は、ネット環境の遅れからインターネット利用が制限され、生活やビジネスでのデジタル活用が遅れているケースが多い。
- デジタル格差の原因の一つであり、経済発展や社会のデジタル化に影響を与えていると考えられる。

今後、光ファイバーなど高速ブロードバンドのさらなる普及が進めば、デジタル競争力の向上や生活の利便性アップにつながるだろう。

参考文献

- [1] OECD. Broadband Portal. <https://www.oecd.org/digital/broadband/broadband-statistics/>, 2022.
- [2] IMD. IMD world digital competitiveness ranking. <https://www.imd.org/centers/world-competitiveness-center/rankings/world-digital-competitiveness/>, 2021.